

育成センターだより

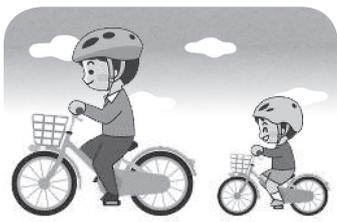
令和5年度
No. 427

長野市少年育成センター
TEL. 228-8547
FAX. 224-0109

長野市青少年健全育成環境浄化強調月間(10月)
全国子ども・若者育成支援強調月間(11月)
全国児童虐待防止推進月間(11月)

年度中間の育成活動

今年度より改正道路交通法の施行により、すべての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となりました。町を行きかう人、学校の登下校でヘルメットをかぶる人が多くなりました。一方、努力義務のためか、まだまだ呼びかけが必要です。安全第一、自転車に乗るときはヘルメットを着用することが習慣となると思います。



子どもたちは、一年の实りの多い収穫期を迎えます。その子どもたちの確かな成長を見届けましょう。そして、学校、家庭、地域が連携し、子どもたちとの関わりを深めながら環境の浄化、声掛け、非行防止に努めていきたいと思います。

育成活動の重点

★ 子どもの表情 言葉遣い
行動に個々の成長を感じ取ろう

子ども自らの自立を支えるために、わずかな変化を見落とさず、成長を見つけ、励まし、見守りを。

★ 朝のあいさつ 人より先に

笑顔で、さわやかな朝のあいさつは、ひとへのプレゼント。心を豊かにします。

★ 深夜徘徊は 非行の芽

深夜の散歩に、遅い帰宅に、愛の一声を。コンビニ前、公園、神社、駐輪場などに愛の眼差しを。

★ 相談は 受けとめ 寄り添い 語り合い

相談は、説教、指導の前に、まずはしっかりと聴くことから。そして共に未来を語り合います。

子どもの成長を支える地域での学び

篠ノ井東中学校長 山下 由紀子

現在、子どもたちを取り巻く環境は、ICT等の科学技術の発展、少子高齢化、地域とのつながりの希薄化など、急激に変化しています。また、「予測困難な時代」を象徴するかのようになり、新型コロナウイルス感染症が流行しました。

このような状況の中にあっても、次代を担う子どもたちには、将来の夢をもって自己実現を目指し、明るい未来を切り開いて欲しい。また、自分たちの住む地域を大切に、地域から学び、地域に貢献する人に成長して欲しいと願います。

子どもたちの将来の可能性を広げ、社会的・職業的自立に必要な力を育むためには、地域での体験活動や、様々な人との交流など、地域での学びが重要であると考えます。地域の事業所等を中心とした職場体験を行う中学生は、職場体験学習を通じて多くの学びを得ます。事前学習で、地域講師の方からお話を聞いた感想を、Aさんは次のように述べています。

「今日は、篠ノ井の歴史、地域によさや課題、私たち中学生への期待など、様々なことを話していただき、とても勉強になりました。私たちの篠ノ井のこと、そこにある会社のこと、そこで働いている人々のこと、篠ノ井に住んでいる方々の願い。それらすべてに自分ができることを考えていきたいと思いました」

また、実際の職場での体験は、そこに働く人々の仕事に対する姿勢や思いに直接触れ、「働くこと」の意義を考え、職業について理解する中で、自分の在り方、生き方を見つめる機会となっています。保育園で職場体験を行ったBさんが、「働くとは」の問いに対して見

つけた答えは、「人として成長すること」。そして、「働く人の姿や言葉・思いから、「保育士」という職業は、園児一人一人としっかり向き合うことを大切にしている、人を育てることがに誇りをもって働いていることが分かった。働いていく上で、自分の仕事にやりがいや誇りをもつということとは、とても大切なことだと学んだ」と、体験を通して振り返っています。さらに、「地域の子どもたちのために一生懸命働いてくれている保育士さんたちの存在や思いを知り、篠ノ井には子どもたちの成長を支えてくれる保育園がたくさんあり、親子で住み、生活していく上でとても魅力的な町だと分かりました。その魅力がたくさんの人に発信していくことができると」と、地域に心を寄せています。

職場体験は、学校を休みがちな生徒にとっても、自分の進路や将来を考えるきっかけとなり、大きな意味をもつものと思います。「動物が好きだから、ペットショップで一日職場体験をしてみたい」と自分で決めて、参加できた生徒。「自分が幼い頃通った保育園で職場体験してみたい」と希望して、三日間頑張った生徒。職場体験に参加できたその経験が大きな自信につながり、再び登校し始めた生徒の姿にも出会うことができました。

学校の外に出て、地域の「ひと・もの・こと」と関わり、体験を通して学んだことは、子どもたちの心に実感を伴っていつまでも残ります。これからも、このような地域での豊かな学びを大切に、家庭・地域と連携しながら、子どもたちの健やかな成長を共に見守っていききたいと思います。

インターネットの普及と少年非行の変化

長野県警察本部 人身安全・少年課 少年サポートセンター 清水 智之

【はじめに】

警察官になり、来年で二十年を迎えます。二十年前と現在の少年非行を比較すると、取り扱う事案の内容は、大きく変化したと感じています。

二十年前は、少年による「万引き」や「自転車盗」といった窃盗事案が多く発生し、毎日のように、被害自転車や「自転車」の張り込みをしていた記憶があります。逆に、二十年前に取扱った記憶がない事案は、「SNSを始めとしたインターネットに関する事案」です。



少年非行数は、年々減少傾向にあります。インターネットに起因する子どもの取扱いは、年々増加している印象を受けます。また、こどもたちから受ける各種相談について

も、「SNSに関する相談」を数多く受理しています。二十年前と比較し、それだけこどもたちの間でSNS等が普及しているのです。SNS等の普及は悪いことではありません。正しく活用すれば、とても便利な物です。これから先は、SNS等を有効に活用していく時代になっていくと思います。問題は、「使い方を誤れば、インターネットは危険性を有する。」ということ。スマートフォンやタブレット端末などをこどもたちに買い与える私たち大人は、しっかりとその危険性を正しく認識し、こどもたちにきちんと伝えることができているでしょうか。

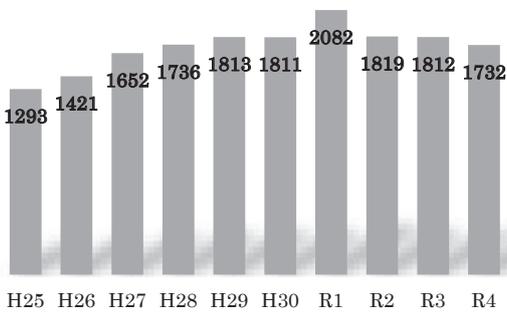
【SNSに起因する事案】

現在、こどもたちのコミュニケーションツールの一つがSNSです。SNSは、一瞬で多くの人とコミュニケーションを取る事ができる便利なツールである一方、インターネットの匿名性や不特定多数の者に対して瞬時に連絡を取ることができるといった特性から、各違法行為の「場」となっている状況がうかがえます。

警察庁で集約した「SNSに起因して犯罪被害に遭った被害児童数(全国)」を見ると、平成二十五年に、二九三人であった被害児童数は年々増加傾向であり、令和四年には一、七三二人となつています。

被害の内訳を罪種別で見ると、「児童買春・ポルノ禁止法」が多くを占め、十年前と比較すると、多くのこども

SNSに起因する事犯の被害児童数の推移(全国)



もが被害に遭っています。これは、長野県も例外ではありません。実際に長野県内においても、SNSで知り合った大人に誘拐される

・ゲームアプリで知り合った者に、裸の画像を要求され、送信してしまう
・家出をしたこどもが、SNS上で家出をしたいと書き込み、相談に乗るふりをした相手に会って性被害に遭う

といった被害が発生しています。またSNSは、犯罪被害だけでなく、少年が加害者となる事犯も多く発生しています。



近年、課題となっている、「電話でお金詐欺(特殊詐欺)の加担」、「大麻を始めとした違法薬物事犯」、「闇バイト」などは、「SNS」が入口となつています。二十年前には考えられないことです。

【各種対策】

警察では、こどもたちがインターネットやSNS等を活用し、「加害者」にも「被害者」にもならないように、小学校や中学校を始めとした各種学校において、情報モラル教育を実施しています。

これらの活動は、次世代を担うこどもたちの健全育成を目的に、実際に発生した事例を交えながら、こどもたちにわかりやすい言葉や表現で伝えられますが、警察だけの力ではその目的を達成するのは困難です。保護者の皆様や学校を始めとした各関係機関等、皆様のお力添えをいただくことで、更

なる効果が得られると考えております。例えば、保護者の皆様には、こどもと一緒にSNS利用のルールを決める

・こどもが使用するスマートフォン等の機器には、フィルタリングを利用する
・アプリは保護者了解の下、ダウンロードさせる(保護者がしっかり管理する)
・学校現場の皆様においては、あらゆる機会を通じて、こどもたちに正しいインターネットの使い方指導する

・警察と連携した情報モラル教育を多く実施する
などといった対策を、それぞれのお立場で実施していただくだけで、こどもたちが有害情報を目にする機会が減少し、こどもたちを犯罪から遠ざけることができます。

こどもたちが使うSNSを始めとした情報ツールは、日々目まぐるしいスピードで変化します。こどもたちを「加害者」にも「被害者」にもしないために、私たち大人は、社会一丸となって、こどもたち以上に情報のアンテナを高く、関心を持つことが重要です。引き続き、次世代を担うこどもたちの健全育成のために、お力添えをいただくと幸いです。

最後に、各種対策を講じて、こどもたちがトラブルに巻き込まれる可能性は十分考えられます。こどもがインターネット上でトラブル等に巻き込まれてしまった場合は、遠慮することなく、警察へご相談ください。



学校紹介

川田小学校

どの子ども居場所があり、
わくわくする学校

川田小学校 教諭 越野 敦子

川田小学校は、長野市の東部、若穂地区に位置する小学校です。豊かな自然に囲まれ、全校児童百七十一名の小さな学校です。子ども達は、夏になるとクワガタムシなどの虫採りに夢中になったり、天気がいい日は元氣よく外に遊びに行ったりしています。
本年度は、全職員で「どの子にも居場所があり、わくわくする学校」を言葉に、日々教育活動に取り組んでいます。



バイキンをたおせの当てゲーム

それぞれの委員会ごと、クイズやゲームなどの遊び場を決め、準備を進めました。保健委員会の「バイキンをたおせの当てゲーム」や放送委員会の「歌詞の内容当てクイズ」など、委員会の趣旨に合ったものを手作りで用意しま

本校では、毎年、児童会主催の「川田まつり」が行われます。特に、今年度は百五十年の記念の年になるので、六年生を中心に力を入れて取り組んでいます。



川田まつり開会式

このように、本年度も子ども達、全職員と協力し合いながら、「どの子ども居場所があり、わくわくする学校」を目指して頑張っています。

した。問題ができてはダメでも、低学年の子ども達にしたりやメダルのプレゼントも用意しました。遊び場の内容が全校の子ども達に分かるように、コマシヤル動画も撮影し、グルグルルームのミートで流しました。「川田まつり」当日は、なかよし学級の一年生と六年生、二年生と五年生、三年生と四年生が三・四人のグループになり、遊び場をまわりました。上の学年の子どもが下の学年の子どもの面倒をよく見る姿が川田小学校の子ども達の良い姿だと思います。子ども達は、「面白かった」と満足しました。普段、登校を渋る子ども達も、「川田まつり」当日は、朝から楽しみに学校に来ることができました。また、登校支援係の先生や特別支援コーディネーターの先生が中心となって、それぞれのクラスの登校を渋る子ども達に対して、働きかけを行っています。家庭に子どもの頑張っている姿を電話で伝えたり、支援会議を開いたり、担任だけが悩むのではなく、一緒に相談でき、前向きに子どもと向き合うことができます。登校を渋っていた子どもが、朝、元氣よく自分から登校することができるようになったケースもあります。

学校紹介

柳町中学校

校訓「唯一心」の
思ひを育んで

柳町中学校 教諭 小林 慎弥

柳町中学校は、善光寺や権堂商店街など長野市の中心地から東側に位置し、市街地に学区が広がっています。令和5年度は、全校生徒517名が在籍し、朝は必ず正門から通称「赤土」を踏みしめて登校しています。新型コロナウイルス感染症の影響で制限されてきた教育活動も徐々に緩和され、マスクを外して笑顔で話す生徒の様子を見て、学校に活気が戻ってきたように感じます。伝統ある校庭大運動会は、今年で七十七回を迎えます。また、昨年から「柳華祭」として文化祭がスタートしました。子ども達の文化系の発表も行いたいという願いから生徒会が中心となり立ち上げました。

本校の学校教育目標「思いやり・自由・創造」の実現に向けて、重点活動の一つが「SELF STUDY TIME」と「柳の輪」です。
① SELF STUDY TIME (自学自習)

通称「セルスタ」と呼ばれるこの活動は、本来五十分の授業時間を四十五分にし、生み出された一日二十五分から三十分の時間を使い、生徒が自分で学習したいことを学べる時間としたものです。子ども達はパソコンを使って未来シードを行ったり、問題集を解いたり、お互いに分からないところを教え合ったり、先生に聞きに行ったりと自由に学習に取り組んでいます。生徒

の意見として、「授業のわからない所を教えてもらう時間になった。」「セルスタの時間に集中し勉強が取り組める。」といった声がある活動になっています。

② 柳の輪 (関わり合いの活動)
特別活動の一環として、関わり合い活動をする事によって、生徒のコミュニケーション能力を高めることやお互いを理解することを目的として活動を行っています。具体的には、学年でレクを行ったり、学級で対人関係ゲームやエンカウンターを月に1回程度行ったりしています。自分のことを上手に表現できない子どもたちや、相手のことを知らないことで距離を取っていた子どもたちが、柳の輪を通して少しずつ打ち解け仲良くなっていく様子が見られます。



ろう学校との交流会の様子

また、柳町中学校では代々ろう学校との交流を大切にしており、運動会などを含め年に何回かの交流を行っています。回を重ねるごとに交流を通して笑顔が広がり、豊かな人間関係が形成されていることを感じます。

柳町中では、仲間とともに行事を創り上げることや、自分自身の課題に向き合い自分自身を高めること、多様性を受け入れながらよりよい人間関係を育むことに対し、校訓である唯一心(ただいっしん)の思いを胸に歩んでいます。自ら未来を切り開いていく生徒に育っていかれることを願って、共に歩んでいけたらと思います。

学校少年委員の記録

年に2回、小中高の学校の先生方が少年育成委員として巡回指導が行われます。夏休みには、各地区、コンビニ店、カラオケ店、ゲームセンター、書店、ネットカフェ等巡回指導を行いました。2学期が始まると、各学校から多くの情報が寄せられました。

○以前より態度がよくなりアイスのケースに寄りかかる子もいない。子どもだけで来ることもあるが、気になる行動はない。(コンビニ店)

○サッカーをしていた高学年児童に、道路への飛び出しをしないことや車の近くで遊ばないことを口頭で確認した。(公園)

○ゲームセンター、書店、おもちゃ屋の店員の方に最近の子どもの様子を伺った。親子連れがほとんどで、「子どもだけで利用する姿は見られない」ということであつた。(スーパー)

○道路、公園周りで自転車に乗って走り回る子が何人かいた。乗り方、交通ルールやマナー等の指導が必要と感じた。(公園)

○小学生だけで来店することは減多にない。昨年度この時期に小学生の万引きがあり、子どもだけの場合は目を光らせているが、これまで変わった様子はない。気が付いたことがあれば、小学校へ連絡をしていただくようにお願いした。(コンビニ店)

○夏休みということもあり、中高生が多かったが、特に気になる様子はなかった。ただ、自転車に乗っている学生はいだが、ヘルメットを着けていない生徒も多くなつた。(駅前)

立入調査を行っています。

今年度も、長野市青少年保護育成条例に基づき立入調査を行っています。DVDレンタル販売店10店舗、書店7店舗、コンビニ176店舗、計193店舗が対象です。

これまでの調査の中で、各コンビニ店では、書籍類が少なくなり、条例に触れる物もほとんどなくなっていました。たいへん感謝です。しかし逆に「夏休みが終わってホットしています」とコンビニ店から話がありました。休み中は、子どもたちが多く来店し迷惑をかけていたようです。休み中の過ごし方については、これから指導の必要性を感じます。



コンビニ店では青少年健全育成協力店ステッカーを貼っていただきました。

地域の状況に応じた出前講座



川中島の福祉施設にて

今年度前半で24件の出前講座の要請がありました。小学校、中学校、高校からの要請がありますが、地域の住民自治協議会からの要請が増えてきました。篠ノ井地区少年育成委員では、「少年育成委員研修」「巡回指導の意義と方法」等年2回、三輪地区少年育成委員会では、「巡回指導の意義」等、実地研修を含めて年2回、朝陽地区少年育成委員、安茂里地区健全育成部会では「巡回指導の心得」等、浅川地区住民のつどい、吉田町青少年委員会、若穂地区青少年育成委員会では「安全なスマホの使い方」について講演を行いました。また今年初めて要請があった福祉施設でも、犯罪等トラブルに巻き込まれないように、スマートフォンでの安全な使い方を啓発する講演を行いました。

★困ったら…困る前に★

『青少年の相談』は

少年育成センターへ

電話 2280-8588

月～金曜日 8時30分～17時15分

※匿名でけっこうです

教材DVDをお貸しします

授業、研修にご利用ください

①親や先生が知らない子供防犯スキル (連れ去り・誘拐編) (24分)

②中学生の命と心を守る性教育シリーズ (ネット・SNSトラブル編) (25分)

③防ごう!性的トラブル (20分)

④いじめの早期発見と対策シリーズ (保護者編) (26分)

⑤スマホの安全な使い方教室 (SNSのトラブルに) (23分)

⑥小学生のスマホの安全な使い方教室 (全2巻、18、21分)

⑦NEW 教員のための保護者対応力向上シリーズ (3巻、20、22分)

・保育園、幼稚園編
・小学校編

(※中学・高校もあります)

編集後記

今年暑さのためかリンゴが不作という話を聞きました。例年通りにはいかないようです。今年は巡回すると、「問題ありません」から、何かしら子どもの話が出るようになりました。早いうちに、非行の芽を見逃さないようにしたいものです。